

平成30年2月15日（木）、日高合同庁舎において、第2回日高管内いじめ問題等対策連絡協議会を開催しました。

本協議会では、日高管内のいじめや不登校等の実態を踏まえ、「各関係機関における子どもたちの現状と課題」や「管内におけるいじめや不登校等の問題の解決に向けた方策」について意見交換を行いました。



【事務局報告】 平成29年度の日高管内いじめ問題等対策連絡協議会の取組

どさんこ☆子ども全道サミット どさんこ☆子ども地区会議

日高管内の小・中学校、高等学校の代表45名が、いじめの根絶に向けた活発な意見交換を行いました。

話し合いの中で出された子どもたちのいじめ根絶に向けた願いを基に作成したポスターを管内の全ての学校及び関係機関に配付します。



【行動宣言ポスター】

いじめ・ネットトラブル根絶！ メッセージコンクール

いじめ・ネットトラブルの根絶の各部門に、1148作品の応募があり、管内最優秀賞の標語2作品が全道入賞しました。

【ネットトラブルの根絶部門】

標語：高等学校全道最優秀賞

「SNS 指先一つで 加害者に」

標語：小学校全道優秀賞

「ひとことで 世界に広まる

プライバシー」



【いじめの根絶部門】

ポスター：管内最優秀賞

(中学校)

【実践発表】 学校、地域、関係機関が連携したいじめや不登校に対する取組について

- 学校及び地域における望ましい連携の在り方
うらかわエマオ診療所 大内臨床心理士
- ・学校や関係機関が、不登校児童生徒の生育歴や人間関係、生活環境等、多様な情報を共有し、支援の在り方を検討することが大切である。
- ・本人の心情に寄り添い、登校に向けた心の準備を待つなど、関係機関同士が役割を明確にして対応することが大切である。



- SCや保健師と連携した相談支援体制の構築
新冠町立新冠中学校 飯田教諭
- ・不登校生徒の相談役を担うSCの情報を校内委員会で共有することにより、本人の心情に寄り添った支援を行うことが大切である。
- ・町内の保健師や相談支援センター等、専門機関と連携することにより、本人の特性に応じた支援体制を構築することが大切である。



【意見交換】 ①各関係機関における子どもたちの現状と課題について ②管内におけるいじめや不登校等の問題の解決に向けた方策について

意見交換に先立ち、事務局において作成した、子どもたちの「絆づくり」や「居場所づくり」に関わる管内の優れた取組をまとめた資料について、本連絡協議会で提案しました。

今後、自己有用感を高める授業づくりや豊かな心を育む道徳教育、社会教育事業の活用など、各地域における取組の参考にしていただくため、管内の全ての学校や関係機関に送付し、活用いただく予定です。

意見交換においては、各委員から、いじめや不登校の現状や課題を踏まえ、それぞれの立場における解決に向けた方策について意見が出されました。



○ 参加者からの主な意見

- ・学校においては、いじめの問題が発見しづらくなってきたり、不登校児童生徒数が増加したりする中で、学校いじめ防止基本方針を見直すとともに、道徳教育の充実を図るなどの未然防止の取組、関係機関との連携による相談体制の充実などを推進する必要がある。〔校長会代表〕
- ・関係機関においては、児童生徒の心に寄り添いながら、それぞれの機関における役割を果たせるよう、学校と連携を密にして取組を進めることが大切である。〔医療・福祉〕
- ・家庭においては、保護者が積極的に学校の教育活動に関わり、いじめや不登校の未然防止の取組について理解を深めたり、学校や家庭での子どもの様子について定期的に教員と情報を交流したりするなど、日常的な連携を行い、家庭と学校の信頼関係を構築していくことが大切である。〔PTA代表〕

【事務局のまとめ】

- ・学校、各関係機関、家庭が日常的に情報共有や各取組の共通理解を図り連携を密にすることにより、相談支援体制の充実を図り、子どもたちの居場所づくり・絆づくりを促進する。
- ・資料「子どもたちのための絆づくり・居場所づくり」を参考に、これまでの取組を、いじめや不登校の未然防止の視点から捉え直し、意図的・計画的に取り組んでいくことが大切である。